

・誤記の修正と、分類学の変更に伴う改訂の両方を掲載してあります。
 ・ページ数の変更は下記表には反映してありません。

頁	項目	初版記述	第2版記述
18	オオシノミガイの学名	<i>Japonacteon sieboldii</i>	<i>Japonacteon sieboldii</i>
23	ウスムシウミウシ目の学名	Runcinacea	Runcinida
24-26	ツメ	後鰓下綱 Opisthobranchia ウズムシウミウシ目 Runcinacea	ウズムシウミウシ目 Runcinida
40	ツメ	ブドウガイ上科 Haminoeidea	キセウタ上科 Philinoidea
48	アカボシツバメガイの属名	ニシキツバメガイ属	アカボシツバメガイ属
	アカボシツバメガイの学名	<i>Chelidonura fulvipunctata</i> (Baba, 1938)	<i>Biue fulvipunctata</i> (Baba, 1938)
48	アカボシツバメガイの解説文	色、稀にW字模様の一部しかない個体や、両端の橙色を除きW字模様のまったくない個体もある	紙幅の都合で削除
	アカボシツバメガイの左下(E)個体		ガーネットツバメガイ(新称)
48	アカボシツバメガイの学名		<i>Mannesia cf. subadigata</i> (Ortea, Moro & Espinosa, 1996)
49	オハワロツバメガイの属名	ニシキツバメガイ属	オハワロツバメガイ属
49	オハワロツバメガイの学名	<i>Chelidonura inornata</i> Baba, 1949	<i>Mariaelaja inornata</i> (Baba, 1949)
50	クロベリシロツバメガイの属名	ニシキツバメガイ属	オハワロツバメガイ属
50	クロベリシロツバメガイの学名	<i>Chelidonura mandrarora</i> Gosliner, 2011	<i>Mariaelaja mandrarora</i> (Gosliner, 2011)
51	ミヨウジツバメガイの属名	ニシキツバメガイ属	オハワロツバメガイ属
51	ミヨウジツバメガイの学名	<i>Chelidonura tsurugensis</i> Baba & Abe, 1959	<i>Mariaelaja tsurugensis</i> (Baba & Abe, 1959)
53	メラノクラミス・ディオメデアの和名	メラノクラミス・ディオメデア	ヤマトキセウタ (新称)
53	メラノクラミス・ディオメデアの学名	<i>Melanochlamys diomedea</i> (Bergh, 1894)	<i>Melanochlamys cf. diomedea</i> (Bergh, 1894)
53	メラノクラミス・ディオメデアの体長	~9mm (固定時)	~11mm
53	メラノクラミス・ディオメデアの分布	北海道、本州	日本温暖域
53	メラノクラミス・ディオメデアの解説文	文末に追加	【分類】 <i>Melanochlamys diomedea</i> は東太平洋産であることから、ここでは参考種とする。ヤマトキセウタの色彩型の可能性がある。和名は分布域に因む。
53	メラノクラミス・コイイの和名	メラノクラミス・コイイ	アメロキセウタ(新称)
53	メラノクラミス・コイイの解説文	文末に追加	【分類】和名は体地色に因む。
57	ハナイロキセウタの属名	カノコセウタ属	ハナイロキセウタ属
57	ハナイロキセウタの学名	<i>Philinopsis fulcipallus</i> (Gosliner, 2011)	<i>Spinophallus fulcipallus</i> (Gosliner, 2011)
57	アオフチキセウタの属名	カノコセウタ属	ワモンキセウタ属
57	アオフチキセウタの学名	<i>Philinopsis gardineri</i> (Eliot, 1903)	<i>Tubulophilinopsis gardineri</i> (Eliot, 1903)
58	カラスキセウタの解説文	文末に追加	【分類】 <i>Zamora-Silva & Malaquias</i> (2018) により <i>Philinopsis giglioli</i> Tapparoni-Canefri, 1874 カノコセウタは本種のシノニムであると考えた。
58	カノコセウタの写真		カノコセウタ=カラスキセウタになったため、カノコセウタの2ショットもカラスキセウタの写真として掲載
59	コジマキセウタの属名	カノコセウタ属	ワモンキセウタ属
59	コジマキセウタの学名	<i>Philinopsis lineolata</i> (H. & A. Adams, 1854)	<i>Tubulophilinopsis lineolata</i> (H. Adams & A. Adams, 1854)
59	ワモンキセウタの属名	カノコセウタ属	ワモンキセウタ属
59	ワモンキセウタの学名	<i>Philinopsis pilsbryi</i> (Eliot, 1900)	<i>Tubulophilinopsis pilsbryi</i> (Eliot, 1900)
60	アミメキセウタの属名	カノコセウタ属	ワモンキセウタ属
60	アミメキセウタの学名	<i>Philinopsis reticulata</i> (Eliot, 1903)	<i>Tubulophilinopsis reticulata</i> (Eliot, 1903)
60	マダラアミメキセウタの属名	カノコセウタ属	ワモンキセウタ属
60	マダラアミメキセウタの学名	<i>Philinopsis</i> sp.	<i>Tubulophilinopsis</i> sp.
61	モンガラキセウタ? の和名	モンガラキセウタ?	ヒョウモンキセウタ(新称)
61	モンガラキセウタ? の学名	<i>Philine</i> sp. 1 cf. <i>arca</i> Gosliner, 1988	<i>Philine</i> cf. <i>arca</i> Gosliner, 1988
62	アカヘキセウタの学名	<i>Philine</i> sp. 2	<i>Philine</i> sp. 1
63	キセウタガイの1種3の和名	キセウタガイの1種3	キセウタガイの1種2
63	キセウタガイの1種3の学名	<i>Philine</i> sp. 3	<i>Philine</i> sp. 2
63	キセウタガイの1種4の和名	キセウタガイの1種4	キセウタガイの1種3
63	キセウタガイの1種4の学名	<i>Philine</i> sp. 4	<i>Philine</i> sp. 3
65	ミドリウミコチョウの記載年	(Tokioaka & Baba, 1964)	Tokioaka & Baba, 1964
69	ムラサキウミコチョウ属の1種の体長	~10mm	~14mm
69	イサイウミコチョウの学名	<i>Siphopteron</i> sp. 1 cf. <i>vermiculum</i> Ong & Gosliner, 2017	<i>Siphopteron</i> cf. <i>vermiculum</i> Ong & Gosliner, 2017
71	レモンウミコチョウの体長	~6mm	~10mm
73	カワイウミコチョウの解説文	amusing	amazing
73	クアドウミコチョウの体長	~5mm	~6mm
73	キマダラウミコチョウ属の1種2の和名	キマダラウミコチョウ属の1種2	キマダラウミコチョウ属の1種
73	キマダラウミコチョウ属の1種2の学名	<i>Siphopteron</i> sp. 2	<i>Siphopteron</i> sp.
81	ジャンメアメラシの体長	~120mm	~200mm
82	ジャンメアメラシのEの体長	追加	NR
83	クロヘリアメラシの和名	クロヘリアメラシと近似種	クロヘリアメラシと近似種
83	クロヘリアメラシの学名	<i>Aphysia parvula</i> Guilding in Mûsch, 1863	<i>Aphysia japonica</i> G. B. Sowerby II, 1869 complex
83	クロヘリアメラシの解説文		【体長】~35mm 【分布】日本海・北海道【形態】体地色は赤褐色から暗褐色。ただし体色は個体によって変化する。側足の縁が赤色と黒色の2色になるタイプ、黒色1色のタイプ、黒色の側足縁に沿って小斑紋の並ぶタイプなどがある。Golestani et al. (2019) により、本邦には側足縁が黒色で、すく内側が朱色になる日本海・北海道産の <i>A. japonica</i> (A.)、および沖縄産の未記載種1種(E)があるとされた。2種以外の <i>A. japonica</i> 近似種については現在検証中。本書では暫定的に <i>A. japonica</i> をクロヘリアメラシとする。
84	ビワガタナメジの学名	<i>Dolabrifera dolabrifera</i> (Cuvier, 1817)	<i>Dolabrifera dolabrifera</i> (Rang, 1828)
84	ブルトクアメラシの学名	<i>Bursatella leachi leachi</i> de Blainville, 1817	<i>Bursatella leachi leachi</i> Blainville, 1817
86	タンナミガイ サブカットの体長	17mm	170mm
88	フィラリシア・エドムンズイ? の和名	フィラリシア・エドムンズイ?	エドムンズメラシ
88	フィラリシア・エドムンズイ? の学名	<i>Phyllaphysia</i> sp. 1 cf. <i>edmundsi</i> Bebbington, 1974	<i>Phyllaphysia</i> cf. <i>edmundsi</i> Bebbington, 1974
88	スチロコナメジ属の1種の学名	<i>Phyllaphysia</i> sp. 2	<i>Phyllaphysia</i> sp.
88	スチロコナメジ属の1種の解説文	誤写	掲高
89	養旨目の解説文	Oxymoeses ナギサノツコ亜目と、Plakobranchacea チドリミドリガイ亜目	Oxymoeidea ナギサノツコ上科と、Plakobranchioidea チドリミドリガイ上科
90-94	ツメ	ナギサノツコ亜目 Oxymoeses	トル
95-136	ツメ	チドリミドリガイ亜目 Plakobranchacea	トル
116-136	ツメ	Limnapanoidea ハダカモクシウシ上科	Plakobranchioidea チドリミドリガイ上科
90	タマミドリガイの学名	<i>Berthelina schlumbergeri</i> Dautzenberg, 1895	<i>Berthelina limax</i> (Kawaguti & Baba, 1959)
90	タマミドリガイの解説文	文末に追加	【分類】 <i>Berthelina schlumbergeri</i> Dautzenberg, 1895はインド洋産。 <i>B. pseudochloris</i> Kay, 1964はハワイ諸島産。
91	フソギミドリガイの学名	<i>Lobiger souverbi</i> Fischer, 1856	<i>Lobiger</i> sp.
91	フソギミドリガイの分布	全世界の熱帯域	西太平洋
91	フソギミドリガイの解説文	文末に追加	【分類】Berriman et al. (2018) によって <i>Lobiger souverbi</i> Fischer, 1856 は大西洋産種であることが示された。
92	ナギサノツコの学名	<i>Oxymoe virides</i> (Pease, 1861)	<i>Oxymoe virides</i> (Pease, 1861)
92	ナギサノツコの写真	サブカットを	メインカットに
92	テンガンノツコの学名	<i>Oxymoe</i> sp. 1	<i>Oxymoe islei</i> Krug, Berriman & Valdés, 2018
94	ナギサノツコ属の1種2の和名	ナギサノツコ属の1種2	アオテンナギサノツコ(新称)
94	ナギサノツコ属の1種2の学名	<i>Oxymoe</i> sp. 2	<i>Oxymoe jordani</i> Krug, Berriman & Valdés, 2018
94	ナギサノツコ属の1種2の分布	マーンヤール諸島、パラオ、グアム、青西諸島	西太平洋、オーストラリア
94	ナギサノツコ属の1種2の解説文	体地色は乳白色。頭部と体部に紺色の細かい斑紋が散在する。側足は淡黄色で、緑色の細点も散在する。側足全体を低い突起が散在する。	体地色は乳白色。全体に青色の少斑紋が散在する。側足や尾は部分的に淡緑色になる。側足にはトゲのような突起が散在する。尾は太く長い。
94	中段	現在はフソギミドリガイ	ナギサノツコ属の1種
94	中段の学名		<i>Oxymoe</i> cf. <i>jordani</i> Krug, Berriman & Valdés, 2018
94	中段の解説文		【体長】~32mm 【分布】西太平洋【形態】体地色は淡緑色で、全体に白色の色域が散在する。体全体に青色の小斑紋が散在する。側足縁にはトゲのような突起がある。触角には紺色の色輪がある。尾は太く短い。【生態】 <i>Caulerpa</i> sp. に着生する。本邦では南西諸島以南で見られる。【分類】青色の小斑紋や側足の突起などが上掲の種と近似する。同種の可能性がある(Gosliner et al. 2018)。
94	中段の写真		現在のナギサノツコのメインカット
96	アズキウミウシの解説文	かつては橙色の細点のない個体は <i>Elysia abei</i> Baba, 1955 アベミドリガイとされていたが、現在は同種と考えられている。	トル
	アズキウミウシの解説文	文末に追加	【分類】 <i>Elysia abei</i> Baba, 1955 アベミドリガイはシノニム。黄色の斑点のある種は別種の可能性がある。 <i>E. japonica</i> Eliot, 1913との関係は今後の課題。
97	フソギミドリガイの学名	<i>Elysia degeneri</i> Ostergaard, 1955	<i>Elysia</i> cf. <i>degeneri</i> Ostergaard, 1955
98	オホミドリガイの学名	<i>Elysia flava</i> Verrill, 1901	<i>Elysia obtusa</i> Baba, 1938
98	ヒルギミドリガイの学名	<i>Elysia leucolegnotae</i> Jansen, 1990	<i>Elysia</i> cf. <i>leucolegnotae</i> Jansen, 1990
98	ヒルギミドリガイの体長	~30mm	~20mm
98	ヒルギミドリガイの解説文	香港産は30mmに達するが、本邦産は20mm程度。【分類】和名は生息環境に因む。	【分類】香港産の <i>Elysia leucolegnotae</i> は30mmに達し、側足縁の白色が明瞭な点で西表産と異なる。
99	ラダミドリガイの解説文	個体によっては側足半ばに	頭部や側足などに、部分的に
99	ニミマミドリガイの解説文	【分類】和名は種小名に因む。	削除
100	コハシロガイの水深	4m	Intertidal
101	イズミドリガイの記載者・記載年	(Baba, 1957)	Baba, 1957
102	ウツミドリガイの記載年	1872	1871
108	コクラミドリガイの仲間の解説文	外部形態に若干の相違があるが、本書では種内変異として扱う。	外部形態が大西洋産の <i>Elysia cauzei</i> Er. Marcus, 1957 に近似する。 <i>Elysia</i> sp. 16 は淡黄色の体地色、背面や側足が白色の小突起におおわれる点、触角が褐色にある点などが大西洋産の <i>Elysia scopis</i> Marcus & Marcus, 1967 に近似する。 <i>Elysia</i> 18は体地色、側足が著しく湾曲すること、側足が黄色く縁取られることなどの特徴が大西洋産の <i>Elysia crispata</i> Mörch, 1863 に近似する。
110	コクラミドリガイの仲間の解説文	を欠く。	の縁取りを欠く。
111	スイトジェルーミドリガイの体長	~15mm	~25mm
113	トリディオリネオラの和名	トリディオリネオラ	ソライロミドリガイ(新称)
113	トリディオリネオラの解説文	文末に追加	【分類】和名は体色である空色に因む。
116	クロスウミウシの解説文	背側突起	背側突起の背面側
122	オオマツモクシウシの記載者	Loven	Loven
123	ミドリアマモクシウシの和名	ミドリアマモクシウシ	ミドリアマモクシウシ
123	ミドリアマモクシウシの学名	<i>Placidia dendritica</i> (Alder & Hancock, 1843)?	<i>Placidia aff. dendritica</i> (Alder & Hancock, 1843)
124	ツマガロモクシウシの学名	<i>Placidia cremoniana</i> (Trinchese, 1892)	<i>Placidia kevinleei</i> McCarthy, Krug & Valdés, 2017

125	タマミルウミウシの属名	アオモミルウシ属	タマミルウミウシ属
125	タマミルウミウシの学名	<i>Suliger smaragdinus</i> Baba, 1949	<i>Sacoprotus smaragdinus</i> (Baba, 1949)
129	ホホベニモミルウシの解説文	【分類】コダシノハチツツに、	剛隆
129	ウサギモミルウシの分布	バブアニューギニア、インドネシア	西太平洋熱帯域
134	ヒメクロモミルウシの体長	~4mm	~13mm
135	オレンジモミルウシの属名	トウヨウモミルウシ属	ミドリアマモミルウシ属
135	オレンジモミルウシの学名	<i>Aphytisopsis</i> sp.	<i>Hermaea</i> sp.
136	トアリモミルウシの撮影地	辰口	辰口
136	ヤセモミルウシの学名	<i>Hermaea</i> sp. 1 cf. <i>evelinemarcae</i> Jensen, 1993	<i>Hermaea</i> cf. <i>evelinemarcae</i> Jensen, 1993
136	ミドリアマモミルウシの1種の学名	<i>Hermaea</i> sp. 2 cf. <i>bifida</i>	<i>Hermaea</i> sp. 2
144	イクオハダカカメガイの属名	イクオハダカカメガイ属	ハダカカメガイ属
144	イクオハダカカメガイの学名	<i>Paedacteone doliformis</i> (Danforth, 1907)	<i>Chione</i> sp.
144	イクオハダカカメガイ 文中	口内縁は2対あるが非対称	口内縁が3対あることが山崎他 (2019) によって判明した。
144	オハマハダカカメガイの属名	<i>Paracteon</i>	オハマハダカカメガイ属
144	ジュウモンジハダカカメガイの属名	<i>Thalpidon</i>	ジュウモンジハダカカメガイ属
144	ヒョウタンハダカカメガイの属名	<i>Thalpidon</i>	ジュウモンジハダカカメガイ属
145-146	<i>Pneumodermapsis</i> 属の和名	ニューモデルム属	ニューモデルムプス属
147	シジガサトエガイ属の1種の和名	シジガサトエガイ属の1種	ヤマトシジガサトエガイ
148	シジガサトエガイ属の1種の和名	シジガサトエガイ属の1種	ヤマトシジガサトエガイ
151	標記目の学名	Pleurobranchomorpha	Pleurobranchida
151	解説文	Pleurobranchomorpha	Pleurobranchida
151-158	ウシ	Pleurobranchomorpha	Pleurobranchida
156	カメノフシエラガイ科の1種		
157	カメノフシの解説文	外套縁は前方で口唇と癒着し、その境目に触角がある。本種の外套縁	剛隆にて、コラムに変更
158	カメノフシの解説文	背鰓	背鰓は通常、腹足より小さい。体地色
158	マダラミカワウシの記載年	1817	1816
159	標記上目より下位の分類群	真蛸目 Euctenidiacea 有顎ウミウシ下目 Bathydoridoidei	標記目 Nudibranchia 有顎ウミウシ下目 Bathydoridoidei
162-348	ウシ、上科より上位の分類群	標記上目 Nudipleura 真蛸目 Euctenidiacea ドーリス下目 Doridacea	標記上目 Nudipleura 標記目 Nudibranchia ドーリス亜目 Doridina
162	カリヤウミウシの解説文	コダシ	群体系的内肛動物
162	ハゴロモミルウシの解説文	コダシ	群体系的内肛動物
169	コトヘメウミウシ属の1種11の解説文	半透明な白色で	半透明な白色で、背面が淡緑色をおびる。
169	コトヘメウミウシ属の1種11の解説文	文末に追加	Goniadoridella sp. 7, および sp. 8と近似するが、背面の色と斑紋の細かさが異なる。しかし色彩型の可能性もある。
171	トノイバラウミウシの記載者・記載年	Bouchet & Ortea, 1983	(Bouchet & Ortea, 1983)
180	ヨシマツガクミウシの学名	<i>Trapania</i> sp. 1 cf. <i>reticulata</i> Rudman, 1987	<i>Trapania</i> cf. <i>reticulata</i> Rudman, 1987
186	ハイロトウミウシの属名	ハイロトウミウシ属	トウミウシ属
186	ハイロトウミウシの学名	<i>A. lutea</i>	<i>A. lutea</i>
188	シロトウミウシの記載者・記載年	Muller, 1776	(Muller, 1776)
189	ミカドウミウシの記載年	1838	1830
192	アサメハダカカメガイの解説文	背鰓正中線上に	背鰓に
194	掲載3種の属名	キイトラフウミウシ属	レモンウミウシ属
194	レモンウミウシの学名	<i>Notodoris citrimus</i> (Bergh, 1875)	<i>Notodoris citrina</i> Bergh, 1875
194	レモンウミウシの解説文	触角先端が黒色の個体も稀に見られる	剛隆
194	クロスレモンウミウシの解説文	や洗斑模様	剛隆
194	クロスレモンウミウシの解説文	和名は体色と、体表の黒色の模様に関与。	和名は濱谷(2000)によりキイトラフウミウシとされたが、中野(2018)において形態をより正確に表す本和名が採用された。
194	クロスレモンウミウシの解説文	黄色い	剛隆
194	キイトラフウミウシの和名	キイトラフウミウシ	アイルレモンウミウシ
194	キイトラフウミウシの解説文	黄色い	剛隆
194	キイトラフウミウシの解説文	文末に追加	【分類】和名は中野(2018)によりキイトラフウミウシとされたが、前掲の種との混同を避けるために改称する。
195	タチアオイウミウシの記載年	(Gosliner & Behrens, 1997)	Gosliner & Behrens, 1997
195	オオエラキヌハダウミウシの解説文	く、鰓葉の外側の縁の部分のみが	輪と触角の先端のみが
196	キヌハダモドキの記載年	1875	1877
196	キヌハダモドキのメインカット	八木島 今本さんの写真	別のカットにさしかえ
200	ツブツキヌハダウミウシの体長	~50mm	~55mm
206	オカダウミウシの解説文	卵塊	卵
206	オカダウミウシの解説文	ウズマキゴカイを餌にする。	ウズマキゴカイを餌にする。
206	エビスウミウシの学名	<i>Polyera amakusana</i> Baba, 1960	<i>Palyo amakusana</i> Baba, 1960
206	エビスウミウシの属名	フタクミウシ属	エビスウミウシ属
206	エビスウミウシの解説文	【分類】以下のテキスト	トル
206	ミスタマウミウシの記載年	1815	1813
207	コダウミウシの解説文	総は黄色く、先端が黒い。	総は黄色く、先端が黒い。→ 総は7葉で後ろの2葉が著しく小さい。総の色は黄色で、先端は黒色。
212	コダウミウシの記載年	1883	1884
212	チナンツリウミウシの属名	フタクミウシ属	ミスタマウミウシ属
213	オセミスタマウミウシの属名	フタクミウシ属	ミスタマウミウシ属
214	エダウミウシの解説文	樹上突起の先端には発光細胞がある。	樹枝状突起の先端には発光器がある。
217	ニンジンヒカクミウシの写真		ベッコウヒカクミウシと差し替え
218	ベッコウヒカクミウシの写真		ニンジンヒカクミウシと差し替え
218	ベッコウヒカクミウシの学名	<i>Plocamopherus</i> cf. <i>imperialis</i> Angas, 1864	<i>Plocamopherus</i> cf. <i>imperialis</i> Angas, 1864
219	アカネヒカクミウシの解説文	口蓋突起	口蓋突起
219	カシマヒカクミウシの学名	<i>Plocamopherus margaritae</i>	<i>Plocamopherus margaritae</i>
219	ヒカクミウシの解説文	複数の樹枝状の突起	樹枝状の突起
219	ヒカクミウシの学名	100m	100mm
220	セロリウミウシの和名	セロリウミウシウミウシ?	オキナワリュウウミウシ(新称)
220	セロリウミウシの学名	<i>Nembrotha</i> sp. 1 cf. <i>chamberlaini</i> Gosliner & Behrens, 1997	<i>Nembrotha</i> sp. 1
224	コドリリュウウミウシの属名	ニキリュウウミウシ属	マルタリュウウミウシ属
224	コドリリュウウミウシの学名	<i>Tambya amakusana</i> Baba, 1987	<i>Martadoris amakusana</i> (Baba, 1987)
226	ニンキリュウウミウシ属の1種2の体長	~10mm	~25mm
230	アオクシエラウミウシの記載者・記載年	Collingwood, 1881	(Collingwood, 1881)
230	ヤマトウミウシの記載年	1882	1882
231	アステロノートス・ヘパティクスの和名	アステロノートス・ヘパティクス	セダコバウミウシ(新称)
231	アステロノートス・ヘパティクスの解説文	文末に追加	【分類】和名は本種に特徴的な正中線上の隆起に因んで。
235~240	ヒオドンクミウシ属の属名	ヒオドンクミウシ属	セガイウミウシ属
238	オンナンクミウシの記載年	1909	2001
239	ハイナツブルクミウシの記載年	1903	1904
240	コトヘメウミウシの学名	<i>Halgerda</i> sp. 2 cf. <i>wasinensis</i>	<i>Halgerda</i> cf. <i>wasinensis</i> Eliot, 1904
240	オウガクミウシの記載年	1989	1986
244	オウガクミウシの和名	hancock	Hancock
244	セバドリス属の和名	セバドリス属	オウツツレウミウシ属
245	キイトラフウミウシの学名	<i>Gastadoris</i> cf. <i>lutea</i> Baba, 1937	<i>Gastadoris</i> cf. <i>lutea</i> Baba, 1937
245	ハタモヒロウミウシの記載年	2006	2007
245	キイトラフウミウシの記載年	2006	2007
247	アムミウシの体長	~40mm	~70mm
252	ミドリモミルウシの学名	<i>Jurama</i> sp. 1 aff. <i>pantherina</i> (Angas, 1864)	<i>Jurama</i> cf. <i>pantherina</i> (Angas, 1864)
255	ソカクミウシの属名	カザウミウシ属	カイトウミウシ属
255	ソカクミウシの学名	<i>Sclerodoris</i> sp. 1	<i>Angasa</i> sp. 6
256	カザウミウシ属の1種3の和名	カザウミウシ属の1種3	カザウミウシ属の1種2
256	カザウミウシ属の1種3の学名	<i>Sclerodoris</i> sp. 2	<i>Sclerodoris</i> sp. 2
256	カザウミウシ属の1種4の和名	カザウミウシ属の1種4	カザウミウシ属の1種3
256	カザウミウシ属の1種4の学名	<i>Sclerodoris</i> sp. 3	<i>Sclerodoris</i> sp. 3
256	カザウミウシ属の1種5の和名	カザウミウシ属の1種5	カザウミウシ属の1種4
256	カザウミウシ属の1種5の学名	<i>Sclerodoris</i> sp. 4	<i>Sclerodoris</i> sp. 4
267	属未確定の種の解説文	sp. 13はツツレウミウシの幼体と思われる。	sp. 13はヒロウミウシ属の可能性もある。
270	クマガレウミウシの解説文	半透明の白色で、背面は青灰色から乳白色の網目状斑紋におおわれる	半透明で、背面は乳白色の斑紋におおわれる。結果として白色に半透明な鱗雲が浮かぶような独特の文様を形成する。
271	ハラックサウミウシ属の1種1の和名	標記種を変える	ハラックサウミウシ(新称)
271	ハラックサウミウシ属の1種1の学名	<i>Halluxa</i> sp. 1	<i>Halluxa mansuetans</i> Gosliner & Johnson, 1994
271	ハラックサウミウシ属の1種1の解説文		【体長】~30mm【分布】西太平洋【形態】体地色は半透明の白色で、背面は白色の網目状模様におおわれる。触角は褐色。【生態】白色のカイメンに隠蔽的に擬態する。【分類】種小名は「半透明の」の意。和名はその巧みな隠蔽的擬態に因む。
272	ハラックサウミウシ属の1種2の和名	ハラックサウミウシ属の1種2	ハラックサウミウシ属の1種1
272	ハラックサウミウシ属の1種2の学名	<i>Halluxa</i> sp. 2	<i>Halluxa</i> sp. 1
272	ハラックサウミウシ属の1種3の和名	ハラックサウミウシ属の1種3	ハラックサウミウシ属の1種2
272	ハラックサウミウシ属の1種3の学名	<i>Halluxa</i> sp. 3	<i>Halluxa</i> sp. 2
272	ハラックサウミウシ属の1種3の解説文	は背面は網目模様になる。	は触角が褐色。
272	シロカメサウミウシの学名	<i>Aldisa albatrossae</i> Elwood, Valdés, & Gosliner, 2000	<i>Aldisa albatrossae</i> Elwood, Valdés, & Gosliner, 2000
274	ホンイチゴジャムウミウシの学名	<i>Aldisa</i> sp. 2	<i>Aldisa fragaria</i> Tibirici, Pola & Cervera, 2017
274	ヒボタンウミウシの学名	<i>Aldisa</i> sp. 3	<i>Aldisa zavrensis</i> Tibirici, Pola & Cervera, 2017
274	モンキヒボタンウミウシの学名	<i>Aldisa</i> sp. 4	<i>Aldisa</i> sp. 2
278	サガミウミウシの分布域	本州南部	日本温帯域
278	ボリアウミウシ	地域変異と考えられる。	トルして【分類】を挿入
280	メダカウミウシ属の1種2	<i>Ardeadoris</i> sp. 2 cf. <i>angustiolata</i>	<i>Ardeadoris</i> sp. 2
280	モンゴウミウシの属名	ミスジアオイロウミウシ属(改称)属	ミスジアオイロウミウシ属
281	タイハイヨウロウミウシの学名	<i>Chromodoris</i> sp. 1 cf. <i>africana</i> Eliot, 1904	<i>Chromodoris</i> cf. <i>africana</i> Eliot, 1904
286	ホニイロウミウシの学名	<i>Goniobranchus alderi</i> (Collingwood, 1881)	<i>Goniobranchus</i> cf. <i>alderi</i> (Collingwood, 1881)
286	チリメンウミウシの学名	<i>Goniobranchus reticulatus</i> (Quoy & Gaimard, 1821)	<i>Chromodoris reticulata</i> (Quoy & Gaimard, 1832)
286	チリメンウミウシの解説文	文末に追加	本書初版ではWORMSに従いアデヤカイロウミウシ属としたが、2版では中嶋他(2018)に従いミスジアオイロウミウシ属の種に変更する。

287	サラサウミウシの学名	<i>Goniobranchus tinctorius</i> (Ruppell & Leuckart, 1828)	<i>Goniobranchus cf. tinctorius</i> (Ruppell & Leuckart, 1830)
287	サラサウミウシの解説文	2008	2018
287	ホムライロウミウシの記載年	(Garrett, 1879)	Garrett, 1879
288	コモウミウシの学名	<i>Goniobranchus</i> sp. 2 cf. <i>aureopurpureus</i> (Collingwood, 1881)	<i>Goniobranchus cf. aureopurpureus</i> (Collingwood, 1881)
288	コモウミウシの解説文	ある。その	高い、別種の
288	コモウミウシ? の和名	コモウミウシ?	ミニコモウミウシ(新称)
288	コモウミウシ? の解説文	ある。その場合本種には別の和名が提唱されることになる。	高いため、南西諸島産の本種に暫定的に和名を与える。
290	オトヒメウミウシの分布域	熱帯域	、中部太平洋
290	カウイロウミウシの記載者・記載年	Baba, 1938	(Baba, 1938)
291	シロウミウシの学名	<i>Goniobranchus orientalis</i> (Rudman, 1983)	<i>Chromodoris orientalis</i> Rudman, 1983
293	ヒメコモウミウシの種小名	<i>rufomaculata</i>	<i>rufomaculatus</i>
293	シロヒメウミウシの分布域	日本	日本温帯域
295	ウスグレナイウミウシの学名	<i>Goniobranchus</i> sp. 3	<i>Goniobranchus</i> sp. 2
295	ワダグモウミウシの学名	<i>Goniobranchus</i> sp. 4	<i>Goniobranchus</i> sp. 3
296	オオセキウミウシの学名	<i>Goniobranchus</i> sp. 5	<i>Goniobranchus</i> sp. 4
296	スゲイロウミウシの学名	<i>Goniobranchus</i> sp. 6	<i>Goniobranchus</i> sp. 5
296	スゲイロウミウシの分布域	南西諸島、八丈島	西太平洋、中部太平洋
296	アデヤカイロウミウシの1種7の和名	アデヤカイロウミウシの1種7	アデヤカイロウミウシの1種6
296	アデヤカイロウミウシの1種7の学名	<i>Goniobranchus</i> sp. 7	<i>Goniobranchus</i> sp. 6
297	アデヤカイロウミウシの1種8の和名	アデヤカイロウミウシの1種8	アデヤカイロウミウシの1種7
297	アデヤカイロウミウシの1種8の学名	<i>Goniobranchus</i> sp. 8	<i>Goniobranchus</i> sp. 7
297	アデヤカイロウミウシの1種9の和名	アデヤカイロウミウシの1種9	アデヤカイロウミウシの1種8
297	アデヤカイロウミウシの1種9の学名	<i>Goniobranchus</i> sp. 9	<i>Goniobranchus</i> sp. 8
297	カッツアイロウミウシの分布域	南アフリカ、東オーストラリア、香港、日本	インド-西太平洋
299	カウイロウミウシの体長	~40mm	~45mm
299	カウイロウミウシの学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 1	<i>Hypselodoris variobranchia</i> Gosliner & Johnson, 2018
299	カガヤヒメウミウシの解説文	体地色は紫色で、外套膜の周縁は太い白線で明瞭に縁どられる。【分類】本種をRudman (1999)はノクイロウミウシの色形として、Gosliner et al. (2008; 2015)は独立種とした。分子系統解析の結果を待つまでは暫定的に独立種として扱う。和名は益田 (1999)による。	体地色は淡紫色。紫色から濃い紫色まで、外套膜の周縁は太い白色帯で明瞭に縁どられる。触角は茶色で、鰓は外套膜と同色。【分類】本種をRudman (1999)はノクイロウミウシの色形としていた。和名は益田 (1999)による。
301	センテンイロウミウシの学名	<i>Hypselodoris maculosa</i> (Pease, 1871)	<i>Hypselodoris decorata</i> (Risbec, 1928)
301	センテンイロウミウシの解説文	体地色は乳白色で、背面には暗紫色から赤褐色の細点が散布する。この背面の色は縦横に富むが、いずれも触角後方から鰓後部にかけて白色の縦線が数本入る。頭部と背面後部、尾端には白色の細点が散布する。触角は白色で、赤褐色の輪を1本有する。鰓は先端よりやや下方が白色。【生態】黒潮の影響を受ける海域では季節や環境を問わずに普通に見られる。	体地色は乳白色で、背面周縁はオレンジ色。背面には白色の縦線が多数入る。紫色と白色の細点が散布する。触角には赤褐色の色輪は3本。【生態】黒潮の影響を受ける海域で、やや稀に見られる。
301	センテンイロウミウシの写真	4カット掲載	Aのみとする
301	中段を新たに作る 和名	センテンイロウミウシ	三ヨリセンテンイロウミウシ
301	学名		<i>Hypselodoris maculosa</i> (Pease, 1871)
301	解説文		【体長】~30mm【分布】西太平洋【形態】体地色は乳白色で、背面周縁は褐色または紫色。背面には白色の縦線が多数入り、紫色と白色の細点が散布する。前掲の種と近似的だが、本種の触角の色輪は2本、他に歯舌の形態や外套膜の位置なども異なる。【生態】黒潮の影響を受ける海域で普通に見られる。
301	写真		初版のセンテンイロのBのみとする
301	シロウミウシの学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 2	<i>Hypselodoris yarae</i> Gosliner & Johnson, 2018
301	シロウミウシの解説文	Gosliner et al. (2008)は独立種とした。	Gosliner & Johnson (2018)が新種記載した。
302	コナユキイロウミウシの学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 3	<i>Hypselodoris skyleri</i> Gosliner & Johnson, 2018
302	アオウミウシの1種4の和名	アオウミウシの1種4	アオウミウシの1種1
302	アオウミウシの1種4の学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 4	<i>Hypselodoris</i> sp. 1
302	アオウミウシの1種5の和名	アオウミウシの1種5	アオウミウシの1種2
302	アオウミウシの1種5の学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 5	<i>Hypselodoris</i> sp. 2
303	クラカトアウミウシのサブカット2個体の学名	<i>Hypselodoris krakatoa</i> Gosliner & Johnson, 1999	<i>Hypselodoris ceriseae</i> Gosliner & Johnson, 2018
303	クラカトアウミウシのサブカット2個体の和名		ヤマトクラカトアウミウシ(新称)
303	クラカトアウミウシのサブカット2個体の解説文		【体長】~55mm【分布】西太平洋【形態】同属他種に比して体高がやや肥厚し突出する。体地色は淡紫色で、褐色や赤褐色の色域がある。触角は赤褐色で、先端は白色、鰓は紅色をおび、軸外側の先端には白い細かき点がある。【分類】淡褐色を帯びた体地色のフィレン産(サブカット)は、Gosliner & Johnson (2018)により <i>H. krakatoa</i> クラカトアウミウシであるとされた。
304	ラドマンアオウミウシの学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 6 cf. <i>rudmani</i> Gosliner & Johnson, 1999	<i>Hypselodoris cf. rudmani</i> Gosliner & Johnson, 1999
305	オダカホシゾラウミウシの学名	アオウミウシの1種7	<i>Hypselodoris roo</i> Gosliner & Johnson, 2018
308	コナガスウミウシの学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 8	<i>Hypselodoris</i> sp. 3
309	アオウミウシの1種9の和名	アオウミウシの1種9	アオウミウシの1種4
309	アオウミウシの1種9の学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 9	<i>Hypselodoris</i> sp. 4
309	アオウミウシの1種10の和名	アオウミウシの1種10	アオウミウシの1種5
309	アオウミウシの1種11の学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 10	<i>Hypselodoris</i> sp. 5
309	アオウミウシの1種11の和名	アオウミウシの1種11	クボミイロウミウシ(新称)
309	アオウミウシの1種11の学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 11	<i>Hypselodoris lacuna</i> Gosliner & Johnson, 2018
309	アオウミウシの1種11の解説文	灰色の、不規則な大きな円斑が	灰色で中心が暗色の、くぼみのように見える不規則な大きな円斑が
309	アオウミウシの1種11の解説文	文末に追加	【分類】和名は本種の種小名 <i>Lacuna</i> の意(空隙、空白、くぼみ)に因む。
310	アオウミウシの1種12の和名	アオウミウシの1種12	ペリイロウミウシ(新称)
310	アオウミウシの1種12の学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 12	<i>Hypselodoris peri</i> Gosliner & Johnson, 2018
310	アオウミウシの1種12の解説文	文末に追加	【分類】和名は本種を発見したフィリピン人ガイド、Peri Paleracioさんに因む。
310	アオウミウシの1種13の和名	アオウミウシの1種13	キャザリンイロウミウシ(新称)
310	アオウミウシの1種13の学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 13	<i>Hypselodoris katherinae</i> Gosliner & Johnson, 2018
310	アオウミウシの1種13の解説文	文末に追加	【分類】和名は種小名の献名者であるKatherine Platekさんに因む。
311	アオウミウシの1種15の和名	アオウミウシの1種15	イトウイロウミウシ(新称)
311	アオウミウシの1種15の学名	<i>Hypselodoris</i> sp. 15	<i>Hypselodoris rositoti</i> Gosliner & Johnson, 2018
311	アオウミウシの1種15の解説文	文末に追加	【分類】和名は種小名の献名者である博物画家の伊藤熊太郎氏に因む。
313	モンジャウミウシの学名	<i>Glossodoris cincta</i> (Bergh, 1888)	<i>Glossodoris cf. cincta</i> (Bergh, 1888)
313	モンジャウミウシの解説文	文末に追加	【分類】 <i>G. cincta</i> の背面周縁は外側が青色、内側が黒色の2色であることから、本種はGosliner & Johnson (2018)に採り、 <i>G. cincta</i> の参考種とする。
314	シロタイイロウミウシの学名	<i>Glossodoris pallida</i> (Ruppell & Leuckart, 1828)	<i>Glossodoris buko</i> Matsuda & Gosliner, 2018
314	シロタイイロウミウシの解説文	文末に追加	【分類】 <i>Glossodoris pallida</i> (Ruppell & Leuckart, 1830)はインド洋産 (Matsuda & Gosliner, 2018)。
316	クワイロウミウシの解説文	体地色は白色で	体地色は白色から桃色で
316	クワイロウミウシの解説文	背面の白色域には	背面には
316	クワイロウミウシの解説文	背面に赤紫色の小斑紋が散在する個体も見られる	この突起が背面周縁と同色になる個体も見られる。
316	クワイロウミウシの解説文	文末に追加	背面に赤紫色の斑紋のない個体は別種の可能性がある(Gosliner et al., 2018)。
318	キョウボウミウシの解説文	外套膜周縁	背面周縁
321	アレムウミウシ	文末に追加	南西諸島からの報告もある(鈴木、私債)。
321	ミアミウミウシの記載年	1904	1910
322	スルヒダウミウシの体長の単位	mm	mm
322	シロサキウミウシの体長の単位	mm	mm
323	シロサキウミウシの体長の単位	mm	mm
323	ユキウミウシの種小名	<i>hongkongensis</i>	<i>hongkongiensis</i>
324	ラボウトウミウシの体長の単位	mm	mm
324	ラボウトウミウシの記載者・記載年	Rudman, 1986	(Rudman, 1986)
324	シラユキウミウシの記載者・記載年	Baba, 1937	(Baba, 1937)
324	シラユキウミウシの解説文	消化腺	外套膜
324	シラユキモドキの記載者・記載年	Baba, 1987	(Baba, 1987)
325	アヲウミウシの記載者・記載年	Marcus & Marcus, 1970	(Marcus & Marcus, 1970)
325	アヲウミウシの体長の単位	mm	mm
325	フジメウミウシの記載者・記載年	Risbec, 1928	(Risbec, 1928)
326	フジメウミウシの記載者・記載年	Baba, 1949	(Baba, 1949)
326	アミメウミウシの記載者・記載年	Rudman, 1995	(Rudman, 1995)
326	ツクサウミウシの記載者・記載年	Rudman, 1995	(Rudman, 1995)
330	イロウミウシ科の1種1の体長	~56mm	~7mm
333	コウシウミウシの体長	~400mm	~750mm
335	クロシタナシウミウシの記載者・記載年	Collingwood, 1881	(Collingwood, 1881)
335	クロシタナシウミウシの解説文	クロシタナシウミウシ	ホクシタナシウミウシ
338	ヒメダラウミウシの解説文	小円斑が散在する	円斑が散布する
338	フレイロウミウシの記載者・記載年	(Pruvot-Fol, 1957)	Pruvot-Fol, 1957
340	ホンジイロウミウシの画像	さしかえす	
340	ミスタイイロウミウシの解説文	不規則な形の黒色の大きな斑紋がある	不定形な黒色斑紋が散在する
342	ウランイロウミウシの画像	さしかえす	
342	ウモンイロウミウシの撮影者名	森田康弘	森田康弘
344	リザイロウミウシの体長	~20mm	~36mm
348	シロダゴイロウミウシの解説文	背面には球状突起が密生しており、周縁部のものほど小さい。	背面周縁には球状突起が密生するが、正中線付近は突起が少なく背面の褐色斑紋が見える。
348	シロダゴイロウミウシの解説文画像	図同定をしたので差し替えます	
349	高次分類群の追加	標本上目 Nudipleura	標本上目 Nudipleura 標本目 Nudibranchia
349-511	ウズに目(もく)を追加	標本上目 Nudipleura	標本上目 Nudipleura 標本目 Nudibranchia
359	コヤナキウミウシの1種14の解説文	細点が入らず	細点が入り
363	概説	トリドモルファ科(2ヶ所)	マンジュウウミウシ科
364	ホンタナシウミウシ	~80mm	~100mm
365	ニュウクワタジマウミウシの解説文	口幕状	口幕上
365	ヒメニュウクワタジマウミウシの解説文	口幕状	口幕上
365	ダイウクワタジマウミウシの解説文	外套膜と同様の黄色い縦線が入る	外套膜と同様の縦線が入る
367	ホノハスエラウミウシの学名	<i>Armina semperi</i> (Bergh, 1861)	<i>Armina scotti</i> Mehrotra, Cahaller & Chavanich, 2017
367	ホノハスエラウミウシの和名	ホノハスエラウミウシ	キツチハスエラウミウシ(新称)
367	ホノハスエラウミウシの解説文	口幕が写真個体のように水色になることも多い	口幕の周縁内側は水色。
367	ホノハスエラウミウシの解説文	文末に追加	【分類】近似的な <i>Armina semperi</i> (Bergh, 1861)は、背面と口幕周縁が赤色になる。触角の色も異なるという(Mehrotra et al., 2017)。
368	ハナオトメウミウシの体長	~60mm	~80mm

375	ホントメウミウシの解説文	口鼻は黒褐色	口鼻は白色
375	ホントメウミウシの分布域	八重山諸島、バブアニューギニア、インドネシア	西太平洋熱帯域
378	マンジュウミウシの記載者・記載年	(Eliot, 1906)	Eliot, 1903
378	マンジュウミウシの科名・属名の和名	トドモルファ科 トドモルファ属	マンジュウミウシ科 マンジュウミウシ属
378	コラムの左側カラム	裸翅亜目	裸翅目トドモルファ目
379	解説	ロマンータ科	ナガムシウミウシ科
380-397	背側突起の単位	対	各側*列
380	シロマツカサウミウシの解説文	背側突起は各側5列。	背側突起は各側5列。背側突起の内側に簡単な髯を有する。
381	ヒスマツカサウミウシの学名	<i>Doto</i> sp. 1 cf. <i>pacifica</i> Baba, 1949	<i>Doto</i> cf. <i>pacifica</i> Baba, 1949
382	フサマツカサウミウシの学名	<i>Doto</i> sp. 2 cf. <i>racemosa</i> Risbec, 1928	<i>Doto</i> cf. <i>racemosa</i> Risbec, 1928
383	マツカサウミウシの中間の学名	sp. 3 から sp. 8	sp. 1 から sp. 6
384	バライロマツカサウミウシの撮影地	大瀬崎	洋島
384	アオホヒマツカサウミウシの学名	sp. 9	sp. 8
384	ナナフシウミウシの和名	ナナフシウミウシ	ナナフシウミウシ属の1種!
384	ナナフシウミウシの学名	<i>Kabeira phanida</i> Shipman and Gosliner, 2015	<i>Kabeira</i> sp. 1
388	スギノハウミウシの中間の解説文	<i>D. kanchaticus</i>	<i>D. katikai</i> ソメワケスギノハウミウシ
388	スギノハウミウシの中間の解説文	2種とも日本近海での生息が確認されていないため。	削除
388	イトヒキウミウシの解説文	文末に追加	【分類】イトヒキウミウシの仲間をスギノハウミウシ属とする研究者もいる。
391-392	ロマンータ科の科名	ロマンータ科	ナガムシウミウシ科
392	コチョウミウシの記載年	1903	1902
391-392	ロマンータ科の科名	ロマンータ科	ナガムシウミウシ科
392	コチョウミウシの記載年	1903	1902
394	ユメウミウシの体長	~100mm	~40mm
400	シラヒメハナガサウミウシの解説文	髯	背側突起
402	オセザキホクヨウミウシの解説文	細線	細線
402	オセザキホクヨウミウシの解説文	白線	白色の細線
402	ミナホクヨウミウシの解説文	褐色	赤褐色
404	ユビノハナガサウミウシの体長	~50mm	~60mm
407	ニドマリハナガサウミウシの学名	<i>Mariana</i> sp. 1 cf. <i>rubra</i> (Ruppell & Leuckart, 1828)	<i>Mariana</i> cf. <i>rubra</i> (Ruppell & Leuckart, 1828)
411	分類群	文末に追加	なお <i>M. rubra</i> は WoRMS (2019) では疑問種とされている。
411	分類群	ミノウミウシ小目	裸翅上目と枝翅亜目の間に 裸翅目 Nudibranchia を追加
411	解説文	Flabellinoidea, サキシマミノウミウシ上科、Fionoidea ヒダミノウミウシ上科、Aeolidioidea オオミノウミウシ上科の3上科からなる。	ヒダミノウミウシ上科 Fionoidea オオミノウミウシ上科 Aeolidioidea オオミノウミウシ上科の3上科からなることされていたが、Goodheart et al. (2018) によりヒダミノウミウシ上科とオオミノウミウシ上科の2上科にまとめられた。
412-422	ツメ	裸翅上目 Nudipleura 枝翅亜目 Cladobranchia ミノウミウシ小目 Aeolidida サキシマミノウミウシ上科 Flabellinoidea	裸翅上目 Nudipleura 裸翅目 Nudibranchia 枝翅亜目 Cladobranchia ヒダウミウシ上科 Fionoidea
422	所属科未確定のサキシマミノウミウシ属の種	所属科未確定のサキシマミノウミウシ属の種	所属科未確定のヒダミノウミウシ属の種
422	上 学名	Flabellinoidea spp.	Fionoidea spp.
422	各学名(計7ヶ所)	Flabellinoidea sp.	Fionoidea sp.
423-458	ツメ	裸翅上目 Nudipleura 枝翅亜目 Cladobranchia ミノウミウシ小目 Aeolidida ヒダウミウシ上科 Fionoidea	裸翅上目 Nudipleura 裸翅目 Nudibranchia 枝翅亜目 Cladobranchia ヒダウミウシ上科 Fionoidea
423	所属科未確定のサキシマミノウミウシ属の種	所属科未確定のサキシマミノウミウシ属の種	所属科未確定のヒダミノウミウシ属の種
423	上 学名	Flabellinoidea spp.	Fionoidea spp.
423	各学名(計7ヶ所)	Flabellinoidea sp.	Fionoidea sp.
425	アカホシミノウミウシの解説文	本属のウミウシは肛門が背面にある。本種の	削除
425	アカホシミノウミウシの体長	~30mm	~35mm
426	ホリミノウミウシの解説文	縦筋	縦線
427	ホリミノウミウシの学名	<i>Eubranchius</i> sp. 2 cf. <i>ocellatus</i> (Alder & Hancock, 1864)	<i>Eubranchius</i> cf. <i>ocellatus</i> (Alder & Hancock, 1864)
430	ホリミノウミウシの種々の和名	<i>Eubranchius</i> sp. 3 aff. <i>leopoldoi</i> Caballer, Ortea & Espinosa, 2001	<i>Eubranchius</i> cf. <i>leopoldoi</i> (Caballer, Ortea & Espinosa, 2001)
430	ホリミノウミウシの種々の学名	ホリミノウミウシ属の1種8	チヤバケミノウミウシ(新称)
433	ホリミノウミウシの仲間科名	ヒダミノウミウシ科 Fionoidea	ユビワケミノウミウシ科 Abrobranchidae
433	ホリミノウミウシの仲間属名	ホリミノウミウシ属	ユビワケミノウミウシ属
433	ホリミノウミウシの仲間分類	ホリミノウミウシ属の仲間	ユビワケミノウミウシ属の仲間
433	ホリミノウミウシの仲間学名	<i>Eubranchius</i> spp.	<i>Abrobranchia</i> spp.
432	ホリミノウミウシの中間の解説文		ユビワケミノウミウシ属の種と思われる不明種を5種掲載する。分子系統解析の結果はホリミノウミウシとの近似性を示唆している。外部形態的特徴は、触角に紫色の色輪を有すること、背面に白色の細点または斑紋が散布すること、背側突起に黄色の色輪があることである。また生殖器にも特有の棘構造が見られる (Cella et al. 2016)。
437	ミドリミノウミウシの属名	モンショウミノウミウシ属	ミドリミノウミウシ属
438	チビミノウミウシの記載者・記載年	(Rudman, 1981)	Rudman, 1981
440	ゴンキミノウミウシサブカット撮影地	辰口	辰/口
442	フトガヤミノウミウシの和名	ゴンキミノウミウシと近似種	フトガヤミノウミウシと近似種
442	フトガヤミノウミウシの解説文	白色の斑紋	白色の細点
444	フトガヤミノウミウシの解説文	完全に	完全に
444	1種追加		<i>Trinchesia lenkae</i> Martynov, 2002 アツケミノウミウシ(新称)
449	イロモユミノウミウシの体長	~**mm	~10mm
449	イロモユミノウミウシの分布	八丈島、南西諸島	西太平洋、中部太平洋
450	タルミノウミウシの学名	<i>Trinchesia</i> sp. 24 cf. <i>kanga</i> Edmunds, 1970	<i>Trinchesia</i> cf. <i>kanga</i> Edmunds, 1970
450	ゴンキミノウミウシ属の1種25の和名	ゴンキミノウミウシ属の1種25	ゴンキミノウミウシ属の1種23
450	ゴンキミノウミウシ属の1種25の学名	<i>Trinchesia</i> sp. 25 cf. <i>kanga</i> Edmunds, 1970	<i>Trinchesia</i> sp. 23
458	ヤマトスナミノウミウシの和名	ヤマトスナミノウミウシ?	ヤマトスナミノウミウシまたはその近傍種
458	ヤマトスナミノウミウシの学名	<i>Pseudovermis</i> sp. cf. <i>japonicus</i> Hamatani & Nunomura, 1973	<i>Pseudovermis</i> cf. <i>japonicus</i> Hamatani & Nunomura, 1973
458	コラム	コラムタケウミウシの幼体	イズミヨツタケウミウシ
458	コラム写真	コラムタケウミウシ	イズミヨツタケウミウシ
459	ツメ	裸翅上目 Nudipleura 枝翅亜目 Cladobranchia ミノウミウシ小目 Aeolidida オオミノウミウシ上科 Aeolidioidea	裸翅上目 Nudipleura 裸翅目 Nudibranchia 枝翅亜目 Cladobranchia オオミノウミウシ上科 Aeolidioidea
466	ナガヒダミノウミウシの分布	本州	日本海帯域
466	ナガヒダミノウミウシの分布	本州	日本海帯域
474	ニイニイミノウミウシの学名	<i>Moridilla</i> sp. cf. <i>brockii</i> Bergh, 1888	<i>Moridilla</i> cf. <i>brockii</i> Bergh, 1888
475	クロフサツミノウミウシの撮影地	辰口	辰/口
476	アザミノウミウシの解説文	クラスター	背側突起基部
477	カルカルミノウミウシの撮影地	大瀬崎	洋島
488	アカエラミノウミウシの解説文	離れる	立ち上がる
489	サクラミノウミウシの分布域	日本	北海道以南、日本海帯域
490	アカエラミノウミウシ属の1種の和名	アカエラミノウミウシ属の1種	アカエラミノウミウシ属の仲間
490	アカエラミノウミウシ属の1種の学名	<i>Sakurazois</i> sp.	<i>Sakurazois</i> spp.
490	アカエラミノウミウシ属の1種の解説文	松だが、アカエラミノウミウシの種内変異の可能性が高い。	バブアニューギニア・南アフリカからも報告がある。
493	アカホシミノウミウシの撮影者名	松田千代子	松田千代子
494	クマドリミノウミウシの体長	~13mm	~15mm
494	アンズミノウミウシの撮影地	辰口	辰/口
496	ミノウミウシの属名	<i>Anteonidifella</i> 属	ホンミノウミウシ属
496	ミノウミウシの和名	ミノウミウシ	ホンミノウミウシ
496	ミノウミウシの解説文	文末に追加	【分類】中嶋他(2019)によって和名が改称された。
496-498	バエオリディア属の和名	バエオリディア属	ウグシミノウミウシ属
496	バライロミノウミウシの分布域	南アフリカ、日本	西太平洋
497	ランソノミノウミウシの分布域	インド、西太平洋熱帯域、温帯域、ハワイ	インド、西太平洋、中部太平洋
498	ウチミノウミウシの解説文	ゆるい湾曲し平滑。	体地色と同色で弱い突起があり、先端は白色。
499	シロミノウミウシの体長	~10mm	~15mm
499	シロミノウミウシの分布域	伊豆半島以南、インド、西太平洋、ハワイ	全世界の熱帯域
502	キホシカスミノウミウシの分布域	本州、九州	日本海帯域
503	カスミノウミウシ属の1種の体長	~15mm	~20mm
505	ホリエラワグシミノウミウシ属の属名	リメナンドラ属	ホリエラワグシミノウミウシ属
506	トグミノウミウシの属名	リメナンドラ属	ホリエラワグシミノウミウシ属
506	ウサギミノウミウシの属名	リメナンドラ属	ホリエラワグシミノウミウシ属
509	ウメガエミノウミウシの科名	所属上科未確定の属の種	ヒダミノウミウシ科 Fionoidea
509	ウメガエミノウミウシの学名	<i>Mya longicornis</i> Bergh, 1896	<i>Mya</i> sp.
509	マヨヨミノウミウシの解説文	また属記載には2種類の図版が示されているが、2種が同種とは考えにくい。属の有効性も疑問視されている。	WoRMS (2019) ではヒダミノウミウシ科 Fionoidea の種とされているが典拠が見当たらず、属の有効性も疑問視されていることから、分類を保留とする。
509	コホリミノウミウシの科名	所属上科未確定の属の種	ヒダミノウミウシ科 Fionoidea
509	追加(八丈島のミノウミウシ)		所属上科未確定の属の種
509	追加(八丈島のミノウミウシ)解説文		後述
509	追加(八丈島のミノウミウシ)写真		八丈島 15m 35mm 早梅廣広
510-511	ツメ		裸翅上目 Nudipleura 裸翅目 Nudibranchia 枝翅亜目 Cladobranchia ヒダミノウミウシ上科 Fionoidea/オオミノウミウシ上科 Aeolidioidea
510-511	和名	所属上科未確定のミノウミウシ小目の種	所属上科未確定のミノウミウシ類
510-511	学名	Aeolidida spp.	aeolid spp.
543	写真提供者	ダイビングサービスマナ	ダイビングショップ MANA
543		追加	Mike Miller, 森田康平(小笠原ダイビングセンター)、早梅廣広(ダイビングクラブ・コンカール)